

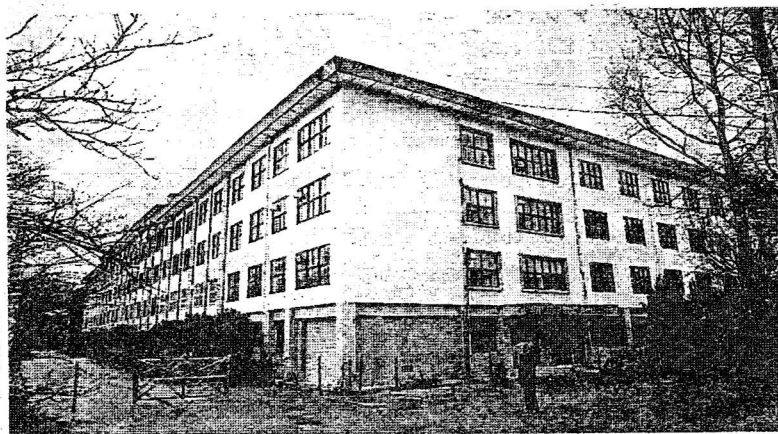
新「城主」に高校生

校舎改築の 二水が間借り

石川県教委は十四日、金沢市の二水高校が八年度から二年計画で取り組む校舎改築工事の期間中、金大城内キャンパス跡地の校舎の一部を仮校舎として使用する考えを明らかにした。通学の便が良い市中心部にありながら静かな学習環境が確保できることから白羽の矢を立て、今春から国と交渉、たつての要請に国側も理解を示した。国立大跡地を

県立高校が「間借り」するケースは全国でも珍しく、金大同窓生らも「城内に再び活気が戻ると、無人化、荒廃防止の面からも期待している。」

無人化防止にも一役



県教委庶務課によると、これまでの校舎改築工事

金大OB「再び活気」と歓迎

8年9月から2年間

は、校舎を半分ずつ取り壊し、残った方の校舎とグラウンドなどに建てた一部プレハブ校舎で生徒が授業を受けるのが一般的だった。しかし、二水高の場合は敷地が比較的狭いため、校舎を一部残しながらの工事では新設建物の配置に制限が加わり、生徒の安全面や工事の騒音などの問題もあったため、昨年度から仮校舎を別の敷地に設ける計画を立て、七月三月で総合移転が完了する金大城内キャンパス跡地に狙いを絞っていた。

県教委庶務課では「交通の便、静寂さ、施設の充実度などから城内キャンパスは最高の学習環境にあり、二水高の仮校舎として何となく確保したかった」と話している。

これに対して金大企画調査課は「国の財産である金大跡地を放置しておくのも忍びない。有効利用につなげてほしい」としている。

二水高校が改築工事の仮校舎として使用する予定の金大教養学部校舎は、同大城内キャンパス跡地

金大城内キャンパス跡地

小松一岐阜・白川

白山トンネルが計画路線に

地域高規格 道指定へ10年後完成めざす

自民党筋が十五日までに明らかにしたところによると、高速道路と一般国道の中間に位置付ける地域高規格道路の計画路線に白山トンネル整備構想を含む小松・白川連絡道路(総延長約四十五キロ)が指定される見通しとなった。現在、同連絡道路は石川、岐阜県境が白山連峰で遮断されており、

今回の指定で事実上、難工事の白山トンネル着工に向けて動き出す格好だ。来年早々から調査に入る見込みで、白山トンネルがめどとする十年後に完成すれば、北陸と関東、信州地方との人、物の流れが飛躍的に増加するものと期待される。

建設省、来年早々から調査へ

地域高規格道路は、高速・空港、港などへの連絡をス、高速道路など幹線道路の道路を補完するとともに、ムースにする機能を備え、みと交差し、平均速度六

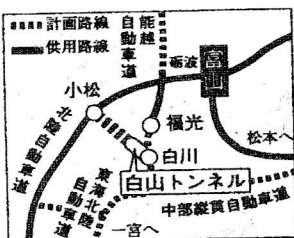
建設省が第一次道路整た。小松・白川連絡道路は現まで難所の白山の山岳地帯に遮られ、実際は不

スの大幅短縮が可能となる。

東京と4時間で直結

解説

小松・白川連絡道路の地域高規格道路指定の見通しとなったこと、事実上の白山トンネル整備事業へのゴ



岐阜県との直結道路が整備されるだけでなく、中部縦貫自動車道、東海北陸自動車道との連結により県内から東京まで四時間、中京圏まで二時間というアクセス

県境をまたぐ難事業だけに、今後の建設促進に向けては、従来の石川県だけにでなく、岐阜県との密接な連携の構築が不可欠となる。

ルート検討後 に計画を決定

関係者によると、指定後は、具体的な整備に向けて、基礎的データの収集、ルート検討を行ったうえで、正式な区間や、分割化も含めたトンネル計画を決定し、十年後の完成をめどに着工に入る運びだ。

17期同期会報告

1994年2月19日午後3時過、JR米原駅新幹線改札口前。冬の陽が少し傾き始める。大家慎一君、小間八郎君がいる。杉本義一君、藤野達人君、藤井芳治君、宇野和子さんが続いて着いた。恵比寿泰子さんが「しらさぎ」で着いた。急いで北陸線の普通電車に乗り換える。懐かしい顔が揃う。数年振りから卒業以来の顔もある。虎姫駅で下車する。「虎姫」、「浅井」などワングルで覚えた懐かしい地名が出てくる。めざすは「須賀谷温泉」。宿のマイクロバスに乗り込む。他のお客さんと一緒に定員オーバー。山行のアプローチの怪しげな乗り合いタクシー顔負け。

「須賀谷温泉」は浅井長政の居城「小谷城」の城趾のある小谷山の南麓にある静かな一軒宿で、ワングル向きである。

早速湯に入る。鉄分の多い温泉だ。温泉はそこそこにして夕食だ。メニューは猪と鴨鍋。都合で遅くなった小島敬君が着いた。わいわいがやがやで盛り上がる。夕食を終えて部屋に戻り話の続きを。そこへサンディエゴの出張から帰り、横浜の自宅に30分寄っただけで駆けつけた川村高弘君が現れる。17年以上前の金沢の下宿の深夜の雰囲気近づいていく。しかし齢四十を越えたせいかな午前3時に就寝。

翌朝、朝風呂、朝食を済ませて宿のマイクロバスで長浜駅へ。電車で時間があるのでバスで米原駅へ。ここで小島（旧姓野村）幸子さんと落ち合う。彦根城に行き、近江路の風景を楽しむ。彦根市内のレストランで近江牛の焼肉で少し遅い昼食をとる。食後、来秋の再開を約してそれぞれ帰路に着いた。充実したそして元気を取り戻せた二日間でした。

1994晩秋 渡辺和文 記



追伸（原稿が遅れてOB会事務局の皆様には多大の御迷惑をおかけし、誠に申し訳ありません。期限内に物事ができない悪しき習癖はいまだ直らず、三つ子の魂百までとはよく言ったものです。そこでせめてもの償いとしてOB会諸兄弟の皆様にはささやかな旅情報をお届けします。）

遠山郷（下栗の里：長野県下伊那郡上村下栗）の御案内

ワングルOB諸氏にはご存じの方も多いかと存じますが、何度行っても大変良いところですので御紹介します。

■特徴

- ・南アルプス南部（聖岳、兎岳などを）眺められる「日本のチロル」と呼ばれる景色のすばらしい鄙びた山村集落です。
- ・御家族でのんびりと南アを眺めるのに最適。

■ルート

- ・中央自動車道・飯田ICからR153、県道上飯田線（矢筈トンネル経由）上村、村道経由で下栗。（約1時間）

■宿

- ・高原ロッジ下栗：

1泊2食¥6,000円（子供¥4,000円）

部屋は洋室のツイン。トイレ、浴室は共同。

下栗分校の跡に建てられた村営ロッジ。現在は元東海大学ワングル主将の38歳の方が御夫婦で管理人をされている。素朴な山の幸の食事がおいしい。

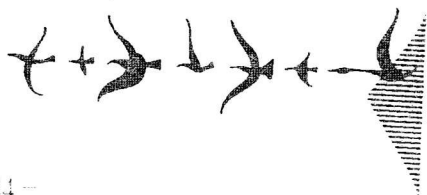
（詳しくは「ラバン」1994年10月号学習研究社刊P.18～27に掲載されています。）

- ・他に民宿が2軒。
- ・しらびそ高原にはしらびそ山荘、大平高原には大平保養センターがある。（いずれも村営）
- ・しらびそ高原にはオートキャンプ場があり、南アルプスを目の前にしたキャンプも楽しめます。

■歩く

- ・尾池山、尾高山へのハイキングが楽しめます。（それぞれ往復3時間程度）

（遠山郷は'82年に同期の小島君に連れて行ってもらって初めて知り、翌年妻子と一緒にいき、その後行く機会を失っていましたが、今秋11年振りに訪ねました。）



1995年1月6日

金沢大学ワングел15期会開催の案内(1)

新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。この正月だけは神様も仏様もずいぶん身近にいるようですので、40代の半ばへ向かう我が身や家族の健康と安泰をお願いしています。ちなみに、私の家では“かまど”の神様にも鏡餅を供えて火の安全を祈る田舎の習慣が続いています。

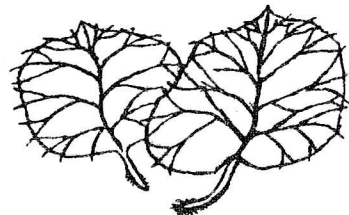
さて、昨年5月の滋賀県朽木村・朝日の森自然研修所におけるワングел15期会には、教え子の結婚式のために出れなくて残念だったのですが、今回は能登でという提案にみんなの賛成が得られたということを幹事の横井君から聞き、丁寧な引き継ぎも受けました。

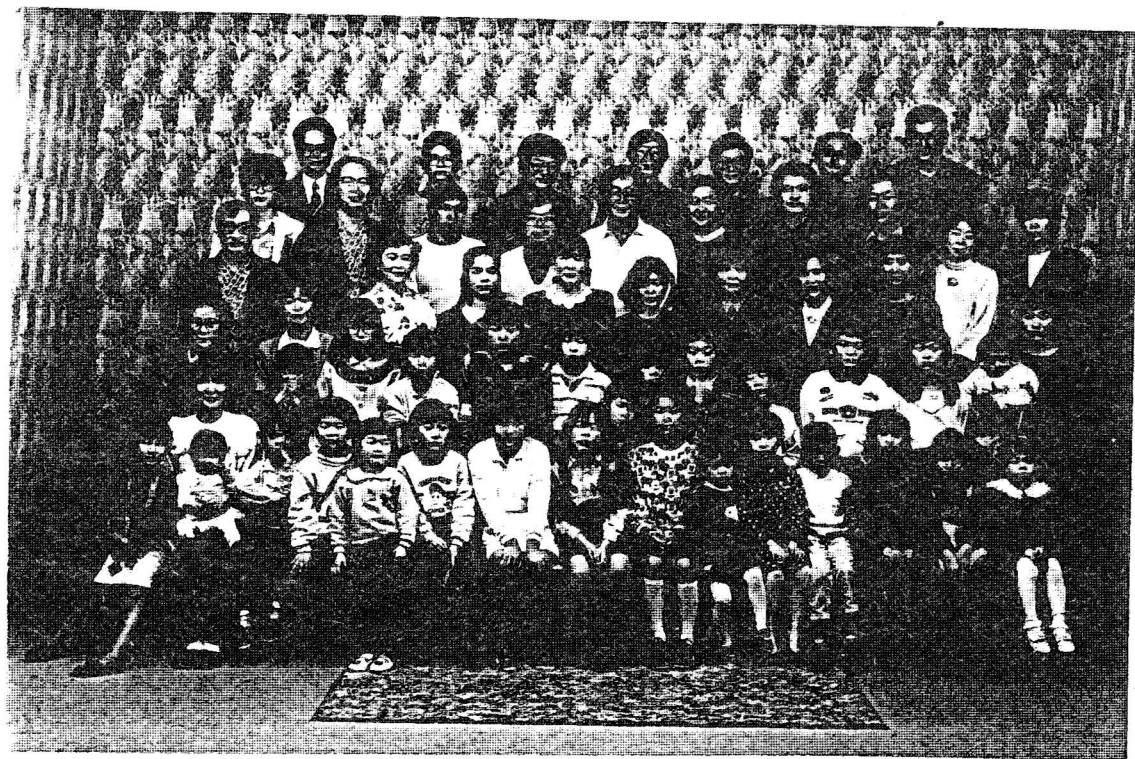
思えば、このワングел15期会は昭和60年に愛知県蒲郡市の三谷温泉で開催されたのが第1回です。その前年までに15期のメンバーは全員結婚してしまい、それまでのように結婚式で多くの人と顔をあわせるという機会もなくなってしまったところから発案されたといえます。以来、下記のように回を重ねて今回は第10回の記念大会となります。栄光の(?)記念大会なので幹事は正月も返上して企画立案にあたっており、さらに、みんなの協力により、飲んで歌って語り合い明日への活力となるような会にしたいと考えていますのでどうぞよろしくお願いいたします。

回	開催年月	観覧	開催地	幹事
1	昭和60年(1985年)3月	愛知	三谷温泉	佐野・増田
2	昭和61年(1986年)11月	京都	京都市内	金井・三宅
3	昭和62年(1987年)11月	石川	一里野温泉	上馬
4	昭和63年(1988年)11月	奈良	奈良公園	松縄
5	平成元年(1989年)11月	福井	宮崎村	間所
6	平成2年(1990年)11月	静岡	久能山	増田
7	平成3年(1991年)11月	石川	金沢市	舟田 ↓ 鈴木
8	平成4年(1992年)11月	兵庫	舞子	宇野・金井・高村
9	平成6年(1994年)5月	滋賀	朽木村	横井・佐野
10	平成7年(1995年)11月	石川	能登	坂尻

※平成5年はKUWVの35周年記念行事のため開催せず

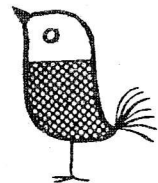
※記憶間違いなどがあったらゴメン





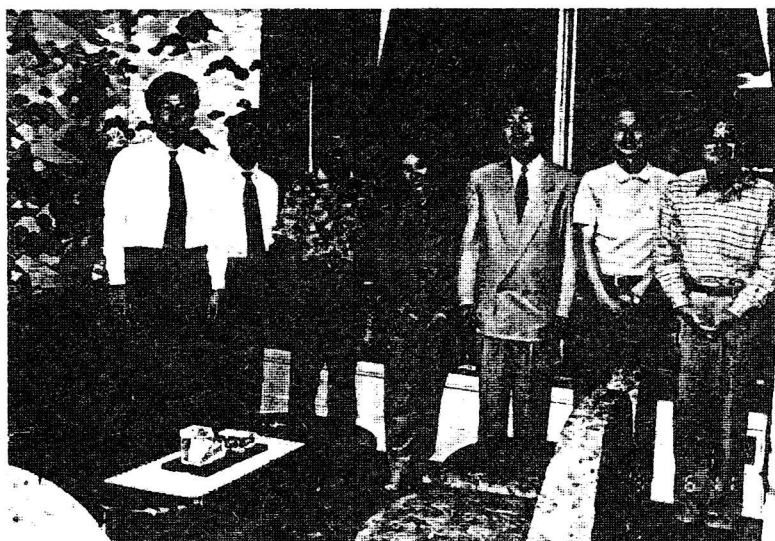
この写真は平成3年のもの。「懐かしの金沢」ということで、15家族、56人が参集（大手堀前KKR加賀貸切）。宴会前のしらふのうちに、次回幹事が決められるが、そのビンボー籤を引いた者は、「安く」「騒げて」「50名は収容」できる施設探しに奔走せねばならないはめになる…。子供達同士が顔なじみになり、遊び興じてくれる様は親同士にも、嬉しい光景だった。だった…と言うのは、そろそろ子供達が独立し始め、どうやら今後は大人だけの集まりに収束していきそうな気配だからである。

それによし。同じワングルの飯を喰って社会に船出した仲間達は、いつまでも心おきなく騒ぎ語り明かせる仲間達である。



4月30日、17期小島さんより、
「この5年くらいの間に周辺の期によびかけての（10名前後参加の）ワングル会を開催してきたが、今度は東海地区ワングルOB80名余りの全員に拡大して呼び掛け、開催しようかと相談し合った。ついには金沢から、金沢の情報を運んで参加してもらえないか？」との打診がありました。役員会でも相談の結果、応援の体制をとることになり、3名の役員が参加しました。この写真は、前回の時のもの。

（今回のものは間に合わず、次回に掲載の予定）



『東海ワングル会』

1995. 5. 3

15期舟田さんたちのご尽力でワングルOB会が隆盛の由、ご同慶の至りです。ベルクハイムも修復し、今秋にはベルクハイムで「月見の宴」が催されるとのこと。そうはいつでも、皆多忙な社会人ばかり。なかなか金沢まで足を伸ばすことはできません。

それで、『東海ワングル会』を東海地区（愛知、岐阜、三重、静岡）の全OB、OG（約20名）に呼び掛けて下記要領で開催することといたしました。

OB会長の大島さん（13期）や事務局長の舟田さん（15期）、鳥越さん（23期）に参加していただいて、現地情報も聞けるようにしたいと思います。しばらくワングルから遠ざかっていた人、近所なのになかなか集まれなかった人も、これを機会にご参加ください。

（ご夫婦での参加も歓迎します。）

あの先輩や後輩にも久し振りに会えます。お誘い合わせの上おいでください。

記

日 時：1995年7月1日（土曜日）午後6時～8時30分

場 所：国際サロン（オレンジ・ルーム）〔名古屋駅前・毎日ビル9階〕

☎ 052-581-8600

名古屋市中村区名駅4-7-35

立食形式

平服どうぞ

宿泊：希望者へのホテル紹介〔J.R名古屋駅から徒歩5分以内〕予約は直接お願いします。

ホテルキャッスルプラザ（S 10千円、T 16千円）

☎ 052-582-2121 FAX 582-8666

名鉄グランドホテル（S 9千円、T 18千円）

☎ 052-582-2211 FAX 582-2230

ホテルアソシア（S 9千円、T 16千円）

☎ 052-561-3751 FAX 581-3236

お手数ですが、5月31日（水曜日）までに、同封の葉書で出欠をお知らせください。

〔発起人：16期川端（682-2432）、17期渡辺（502-0477）小島（892-1224）、18期森（881-2377）〕

東海ワングル会

参加報告

* 出席者

9期 伊藤 俊成	名古屋市
9期 白井 勇	桑田市
11期 石田 清久	半田市
12期 杉森 和義	半田市
13期 大島 良治 (来賓)	金沢市
13期 岩田 実	名古屋市
13期 柴田 茂樹	名古屋市
13期 柴田 訓子	名古屋市
15期 舟田 節子 (来賓)	金沢市
15期 佐野 哲雄	岡崎市
15期 祖父江直久	名古屋市
16期 川端 俊朗 (世話人)	名古屋市
16期 清水 重仁	岐阜羽島市
17期 小島 敬 (世話人)	名古屋市
17期 小島 幸子	名古屋市
17期 渡辺 和文 (世話人)	名古屋市
18期 森 博彦 (世話人)	名古屋市
21期 羽根 嘉隆	伊勢市
23期 鳥越 伸博 (来賓)	金沢市
23期 浅輪 郁代	小牧市
23期 窪川 淳一	刈谷市
25期 金山 裕之	半田市
25期 辻村 善徳	春日井市

15期 舟田 節子

(本当は、苦勞された小島さんに書いてもらえばいいのですが、会報発行を優先し、とりあえずの報告を…)

金沢組3名は、しらさぎ10号で名古屋へむかう。こんな支部誕生に出掛けられるなんて、後5年の間に何ができるか?と不安だった頃と比べれば夢のよう。

迎えに出てくれているはずの渡辺さんとは出会えず、変更された会場・名古屋国際センター25F東天紅へ3人でルートファイディング。無事到着。35周年でお会いした顔、久しぶりの顔、初めての顔、それぞれに3つのテーブルに分かれ、もう和やか。それでも一応の式次第ののり…と司会の16期川端さんが前に出る。

挨拶、乾杯に続き、自己紹介。年賀状に書きたいばかりに何とか一年に一度は登るようにしていたが…や、久しぶりに見た先輩の顔と、自分の顔を見比べて…と、楽しい近況報告や山との関わりの話が続く。中華料理が次々と運ばれ、昔ながらにまめな人はさっと分配係に回り、誰かがやってくれと、誰かは食べる人に専念し…自然に分担が決まるのが、これまたワングルらしいところ。

続いて、スライド映写。椅子を寄せ、「もっと前に」とプロジェクターの机をずらした途端、折り畳み式の足が崩れ、並べてあったスライドが絨毯に飛び散る。一同思わず、テントの中で鍋がひっくり返ったあの無残な光景を蘇らせたのでありました。

かくして、白山、高三郎、鳴谷山は「渾然一体」となり、縦位置のものは「今度は左が上で」「ああ、これは右が上ですねえ」と、頭の中も外もグルグルと体操する羽目になる。それでも懐かしんでもらえたようでした。

それまで、後ろ姿で小さく登場していた夫の正面が、三男坊と共にシャクナゲをバックに登場。「皆さん、感謝しましょう。」と声がかか



* 式次第

- 1) 発起人挨拶 (17期 小島)
- 2) 来賓挨拶 (OB会長 13期 大島)
- 3) 乾杯の音頭 (9期 伊藤)
- 4) 参加者の自己紹介
- 5) OB会近況・スライド映写 (15期 舟田)
- 6) ワングル歌
- 7) 閉会の挨拶 (16期 川端)

受付 (13期柴田 17期小島 23期浅輪)

カメラ (17期 渡辺)

会計 (18期 森)

る…「ありがとうございます」とすかさず合掌する人がいて、爆笑。

もう、時間切れ間近。テーブル毎に、ワングル歌を歌う。何やら微妙に、ズレがあるよう。歌詞が自然に出てくることに感激する人あれば、何も出てこなくなったことに感慨する人もあり。

名残おしく閉会。つい、「これから、よろしく」と挨拶して回る私に、「今日は<来賓>だろ!」と先輩の声がかかる。

いつか一名実ともに<来賓>になりたいもの。せわしく車中の人となりました。

東海ワングル会

不参加者からの連絡

*4期 森島 稔

・7月1日が定期異動の日になっており、異動するかも知れずですので、残念ながら欠席
・昨年の白山行ができなかったことが今も悔やまれるが、大島会長や舟田さん達にお世話になりうれしかった。よろしくお伝え下さい。
・東海ワングル会、発起してくれた4人の侍に感謝しています。今後共よろしく。

*6期 今井 春昭

懐かしい皆様方にお会いできることを楽しみにしておりましたが、当日は公用の会議のため出席できなくなりました。特に3-9期の皆様には、あの頃の思い出を含めて感謝し、御活躍を祈ります。

この会が今後度々開催されることを期待しています。

*7期 大磯 岩雄

親の世話で今回は失礼します。山への憧れはいまだに失っていません。子供はついでになくなりましたので、妻と時々登っております。

*19期 佐野 吏

1年生合宿の南アルプスへの想いはいまだに

続いており、年2-3回は北岳周辺に登っております。4月には鳳凰三山に行って来ました。春山としては手頃なので最近よく行きます。北岳の方へ来る時は声をかけて下さい。

*22期 安達 敦子

ワングルで過ごした4年間の何倍もの月日が経ているのに、当時の自分の思いは鮮明です。いい時期にいいところで過ごさせてもらったと、幸運に感謝します。

東海ワングル会の発足で、またひとつワングルが近づいてくれたことをうれしく思います。御苦労様です。



下のような連絡を受けています。この会報がお手元に届く頃は、締切の7月10日を過ぎていることでしょうか、ご都合のつく方は、世話役の山口さんにご連絡下さい。

KUWV 21期生卒部 15周年懇親会と 江口喜美江さんの墓参りのお知らせ

95.6.18

今夏下記の予定で21期生が名古屋に集まります。つきましては、名古屋近辺の方にもご参集いただければと思います。参加される場合は、7月10日頃までに、山口までご連絡下さい。
連絡いただく内容は、①懇親会のみ②墓参りのみ③両方参加のいずれかと、④宿の必要性の有無です。

日程：平成7年8月5日(土)～6日(日)

5日午後6時より懇親会

6日午前9時頃宿出発し江口さんの墓参り
(自由参加、墓参り後解散の予定)

場所：KKR名古屋三の丸

名古屋市中区三の丸1-5-1

TEL 052-201-3326

地下鉄・鶴舞線「丸の内」駅下車、1番出口より徒歩6分、JR名古屋駅からの場合 地下鉄・東山線伏見駅で乗換えて鶴舞線「丸の内」駅

宿泊可、費用8,300円程度(1泊朝食付き)

懇親会費：8,000円

21期出席予定者：足立睦俊、石田郁子、大沢安一、加藤万里子、河嶋京子、滝本民夫、竹内和彦、竹本彰、田坂優好、丹野裕一、土屋寛之、樹睦美、羽根嘉隆、山口克己

以上、ご検討下さい。参加をお待ちしています。

山口 克己 tel 0298-38-2888

久しぶりの高三郎

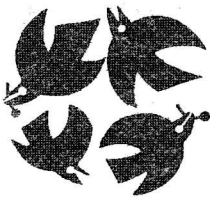
18期 椿川 利弘

ゴールデンウィークの次の週の金曜日の夕方、梶（19期）から明日からの土日で高三郎に登らないかとの電話があって、メンバーを聞くと、栃尾と深田夫婦（いずれも20期）それに梶の女房（21期）と全員がワンゲルOBであったので、突然ではあったが、即OKした。しかも、この6人は18年前の現役の1年生から4年生にあたるのが後でわかり、梶リーダーのもとチームワークも抜群で4年生の私はもう楽珍でした。（少しバテたが！）

行程はベルクハイムで1泊して翌日高三郎の往復なので、今秋の月見の宴に高三郎へ登山される方の参考に、ここに久しぶりの高三郎について紹介したいと思います。

土曜日は、途中貯水池わきにある故高桑氏（19期）の墓にお参りして、犀川ダムから1時間半程でベルクハイムについた後、少し時間があつたので、水場までの道を整備することにした。夜は、近くで採ってきたウド、カタハ、スズタケ等の山菜とレトルトの牛丼、それに少々のお酒でささやかな宴会となった。

次の日、朝早く金沢から出てきた深田夫人と合流して、8時頃ベルクハイムを出発した。水量豊かな倉谷の流れを横目に見ながら新道登り口に到着した。新道は昔どおり急ではあるが、踏み跡もはっきりしていて歩きやすい。ザック置き場で休憩した後も道は同じような状況で、成ヶ峰の分岐まで2ピッチ、2時間程度かった。途中、ヤブツバキが道沿いに咲き乱れ、ウラジロヨウラク、タムシバ、その他の花や木の名前を梶に教えてもらいながら、高三郎までは意外と近いと思って歩いた。



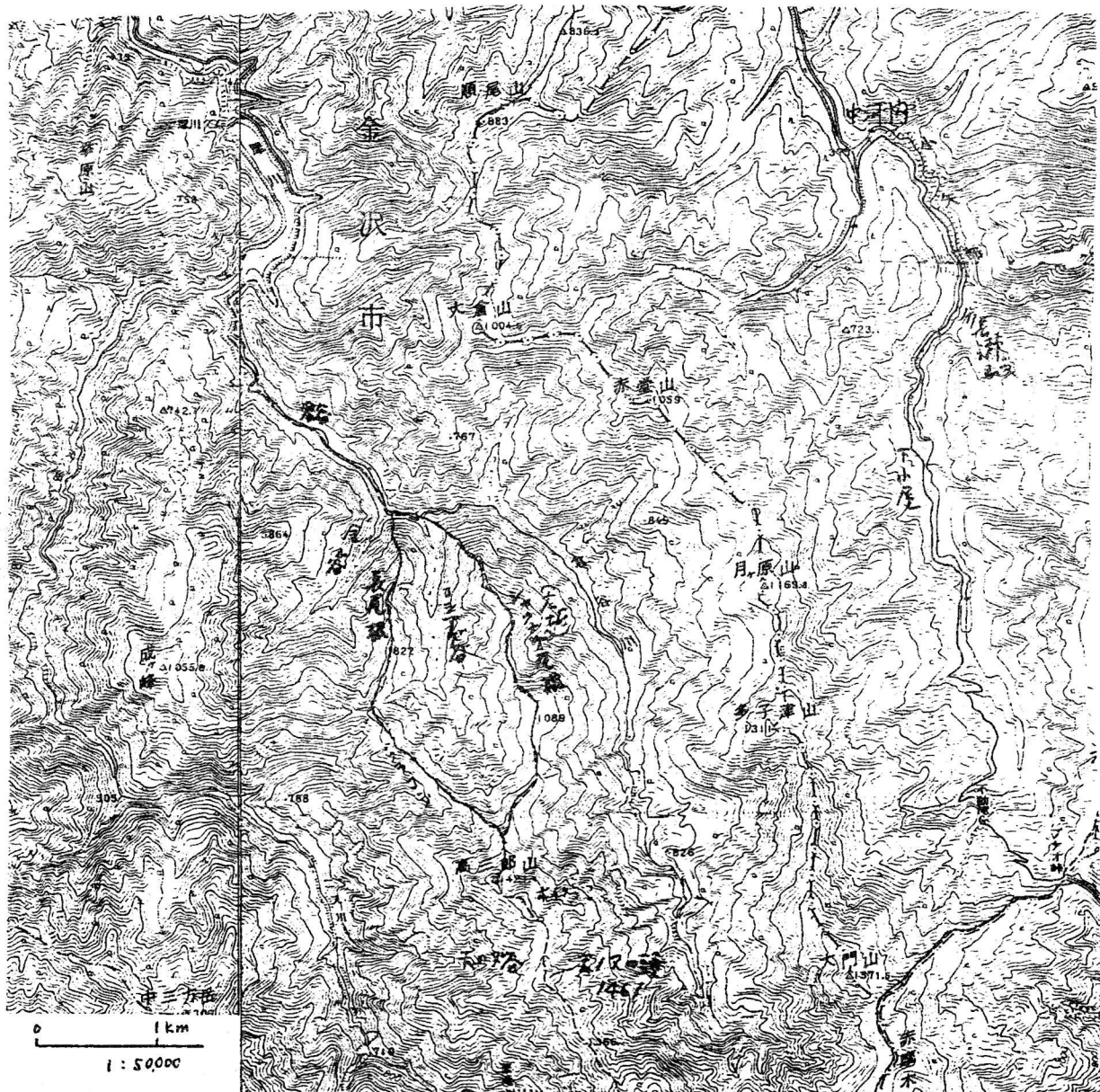
しかし、そこからはヤブこぎのうえ、痩せ尾根で危険で、とても1ピッチで高三郎は無理とあきらめ、旧道とつぎの急登部で休憩することにした。ここまではシャクナゲの花がとてもきれいで、昼寝岩（今でも言うのかな？）はほんとさせてくれた。旧道に出てからはほとんど残雪の上を歩くことができ、4時間かかって正午に山頂に立った。

雪に覆われた山頂では、新緑の犀奥の山々を見渡すことができた。心配していた雨がポツポツ降ってきたので、寒くてビールもすすまなかったが、とにもかくにも14年ぶりのピークはひとしをであった。

帰りは旧道を下りることにした。旧道は、新道ほど歩きにくくはないが荒れていて、尾根の広いところでは道が分かりづらくなっていた。そこはグループ叢のメンバー、すばやくルートファインディングしたので、予定どおり2時間半でベルクハイムに着いた。

以上簡単にルートの状況を書いてみたが、思い出して頂けたでしょうか。私は、みんなで紅葉の高三郎をもう一度登りたいという気持ち半分と、こんなしんどい山はもういいという気持ち半分です。

なお、2、3年前から、OB会役員になったことや週休2日制、体力の増進等々で月に1回程度は山に登るようになったので、機会があれば昔の仲間と一緒に登れればと思っています。



事務局長とその夫は、東海ワングル会披露用のスライドを撮るため、椿川さん達の一週間後に登ってきました。(お互いに知らなかった。)今、高三郎は、数年に一度、一念発起して体力試しに登りに行く山です。とはいえ、在部中はシャクナゲを見た覚えがなく、ピークを踏んだのも一度だけだったように思います。猿ヶ山と大門の間に、白馬から槍まで北アがずらりというのは今回が初めてでした。

そして倉谷まで戻ってきて、新トレの現役達に会いました。テント村ができているのは嬉し

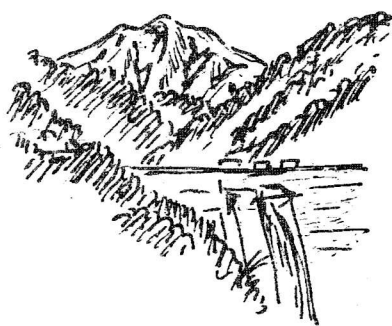
い光景…。こんな所まで押し掛けるOBなんて、立派なのか？迷惑なのか？まあ…立派としておきましょう。

月見の宴の下調べもすみましたし…。尚、現役達が付けに行ったBHの鍵のナンバーは

594 です。

事務局長のコースタイム

ダム (1時間10分) BH (15分) 新道取付 (1時間35分) 犀滝分岐 (1時間15分) 昼寝岩 (1時間) 分岐 (30分) 高三郎頂上 (15分) 分岐 (40分) 1089 P (1時間30分) 旧道取付



*犀川ダムー倉谷

以前より灌木が生い茂り、ダム湖がほとんど見えない状態になっています。しかし、踏み外せばダム湖に落ちてしまうことに変わりはありません。足下が見えにくくなっている分、より危険になったとも言えますので、十分注意して歩いて下さい。

ダムから二つ目の切れ込みは、水平のまま進むのではなく、河原へ降りて沢を横切るようになっています。

出島と呼ばれる辺りは、昔は270度の展望で広いダム湖を眺めることができましたが、現在は60-90度の視界といった所です。

倉谷集落跡から、テントサイトのある河原に至る途中に、倉谷川が蛇行し滞っている箇所があります。ここは浸食がさらに進み、護岸の石組が沈下しています。岸伝いに通過するようにして下さい。

*新道

新道取っ付は金山谷を渡ると、テント一張分の平地があり、その向かいです。標識はありません。ロボット雨量計のある983Pとの分岐までの「長尾根」と呼ばれる部分が、現在高三郎山中では最も整備されている箇所です（その筋の手が入っているのか、釣人が通るのか）。クラコシ尾根に入ると、道は樹林帯にやや残っている程度で、道がないという方が良心的です。灌木に足をとられると真下がないといった箇所もあり、通過はほんの春先に限られます。

*分岐ー頂上

灌木におおわれかなり厳しい状態です。シャクナゲの頃であれば、残雪で被われ、楽に通過できます。ピークの熊笹の茂みの中に三角点と案内板（朽ちて地面に置かれている）があります。



*旧道（下りの場合）

まず分岐が要注意です。頂上から15分ほど尾根伝いに下りてきた所で、手前にある旧道尾根に向かうようにして下さい。旧道に入るとすぐロープがあり、下はザラザラの土が剥き出しになってえぐられています。つかまる枝を確かめて慎重に下りて下さい。

続く道ははっきりしていますが、小枝がかなり出てきています。迷いやすいのは、1089Pの下りあたり。なだらかなピークで、ここから左よりに進むのですが、誰もがここで迷うらしく迷い跡のため、余計迷い易くなっています。疲れていたり、時間に追われとるとますます迷いますので、冷静に尾根を読んで下さい。旧道往復の場合であれば、登りの時に赤テープをつけていかれるとよいでしょう。

最後の30分はとにかく急坂です。昔のリーダーのにつっき声を思い出し、あるいはリーダーだった頃の声掛けを思いだし、気を引き締めて下りて下さい。